

ムアラ・マハット・バル村の状況についての報告書

2005年4月28日

弁護士 河村 健夫

第1 ムアラ・マハット・バル村の概要

1 ムアラ・マハット・バル村は、スマトラ島リアウ州カンパル県タプン郡にある村の一つであり、タプン郡に位置する。コトパンジャンダム建設に伴って、旧ムアラ・マハット村の村民たちが移住して形成された村である。旧ムアラ・マハット村はカンパル県ティガブラス・コトカンパル郡に位置しており、旧村と新村の距離は約40キロメートルである。

村の人口は約3000人であり、そのほとんどがアブラヤシ（パームツリー）栽培で生計を立てている。

村には、村役場・村長宅・学校・モスクなどの施設が存在している。それ以外の地区にもムショラ（小規模な礼拝所）などが存在している。

第2 調査の概要

1 6月25日調査

2004年6月25日、原告代理人河村健夫において、ムアラ・マハット・バル村に赴き、調査をおこなった。

同行者は、日本から通訳として坂井美穂、調査補助者として山口兼男、現地から KBH リアウ所属の弁護士アリ・フシン・ナスティオンほか弁護士4名、WALHI リアウ、KBH リアウ所属のベンベンほか5名の、合計12人であった

同調査では、当職らが同村のニニック・ママ（慣習法指導者）であるアフマッド・ページー（AFMAD P G 原告番号 G1）から村落移転前後における同村の状況、移転後におけるアブラヤシ栽培の状況などを聞き取るとともに、現地スタッフらが同村村民らに対し、同村における生活状況などを聞き取る方法により行われた。

2 6月26日調査

6月26日夜、原告代理人河村健夫において、ムアラ・マハット・バル村に赴き、調査をおこなった。

同行者は、日本から通訳として坂井美穂、調査補助者として山口兼男、現地から KBH リアウ所属の弁護士アリ・フシン・ナスティオン及び同ヘンドリシアなど合計6名であった。

同調査では、当職らが同村の（下位の慣習法指導者）であるアミル・ハシム（Amir Hoesen 原告番号 G4）氏、イマン・ナシル（Iman Nasir Dt. Cermin 原告番号 G45）氏のほか、マンスール（Mansur, B 原告番号 G868）氏、アプリス（Apri 原告番号 G113）氏から村落移転前後における同村の状況、移転後におけるアブラヤシ栽培の状況などを聞き取る方法により行われた。

第3 調査結果

1 アブラヤシ栽培の状況について

(1) SAPS 報告書によれば、ムハラ・マハット・バリ村においてはアブラヤシ栽培を主要な収入源としているため、「一般に、同村は、コトパンジャンダム建設の影響を受けた他の村々と比べて、経済生活の点では恵まれている」とされている。

(2) そこで、移転の前後を通じて同村のニニック・ママ（慣習法指導者）であり、自分自身も2ヘクタールのアブラヤシ農園を所有するアフマッド・ペーゲー氏の農園を視察し、アブラヤシ栽培の状況について同氏及び同氏の孫から事情を聴取した。

この聴取結果を踏まえて、26日夜の聞き取りを行った。

(3) その結果、①アブラヤシの生育が不十分な地区があったこと②移転前の州政府による説明ではアブラヤシ農園は無償で譲り渡されるという話であったが、実際には7年のローンによる有償譲渡に過ぎなかったこと③収穫したアブラヤシについて販売先が限定されており、かつ、販売価格は市場価格より低額に設定されていること、が明らかとなった。

2 生活状況について

(1) SAPS 報告書によれば、ムハラ・マハット・バル村は年間収入が2900万ルピアに達し、他の移住地の収入と比較して高額であると分析されており、コトパンジャンダム建設に伴う移住地の中では相対的に成功した例として扱われている。

(2) そこで、アブラヤシ農園において上記アフマッド氏及び同氏の孫からアブラヤシ栽培による経済的収入について聞き取りを行い、同氏所有のアブラヤシ農園に赴いて現況を調査した。

それとともに、26日調査において、住民原告らから生活状況などにつき聞き取りを行った。

その結果、同村の生活困窮の要因として、土地譲渡が7年間ローンという有償譲渡形態でなされた点が浮かび上がったため、その証拠として、同ローンの支払い状況について原告ウマル・B氏（原告番号G602）の娘であるムルニアティ氏（女性）から支払い表の提出を受けた。

また、村落全体の経済状況について、26日調査においてアブラヤシ栽培による経済的収入の状況につき重ねて聞き取りを行った。

(3) その結果、①住民たちは、移転後から7年間、1世帯あたり2ヘクタールのアブラヤシ農園の譲渡代金ローンとしてアブラヤシ売却代金の30%を徴収される生活を送っていたこと、②上記ローンを滞納した結果、現在も支払い義務を負っている原告らがいること、③アブラヤシ販売の代金のみを集計すれば年間2500万ルピア程度の収入を得ている村民は存在するが、上記ローン支払い及び肥料代などの出費を差し引くと、村民らの平均年収は2ヘクタールの農地あたり1000万ルピア程度であること、④アブラヤシの売却先が特定の私企業（PT ラマ社 PT.Rama Jaya Pramukti 社）に限定されている結果、売却価格も市場価格よりも低額であること、⑤SAPS に記載されている養鶏事業などは全て失敗し、住民たちの収入源はアブラヤシの売却に頼る典型的なモノカルチャー経済となっていること、⑥農地分配に際して住民らが依拠するミナンカバウ様式によるタナウライヤット（部落共有地）が一切考慮されなかった結果、現在は2ヘクタールの農地あたり2～3世帯が収入を分割して生活していること、⑦従って、住民1名あたりの収入は移転前と比べて大きく減少しており、生活状態は移転により悪化していること、などが明らかとなった。

第4 添付資料

上記を裏付ける資料として、聞き取り報告書及び地図を添付する。

聞き取り調査報告書①

2004年6月25日午後1時から
アフマッド・ペーゲー氏の自宅

聞き取り対象者：アフマッド・ペーゲー氏（原告番号 G1）、ムルニアティ氏（原告番号 G602 である原告ウマル・B 氏の娘）

（河村）

経歴を教えてください。

（アフマッド）

ムアラマハットバル村で1929年に生まれました。現在75才です。ニミックママ（慣習法指導者）になったのは1980年代です。

（河村）

今日は、移転後の生活状況について聞きたいと思います。アフマッドさんは移転に伴ってアブラヤシ農地の配分を受けましたか？

（アフマッド）

はい。

（河村）

広さは2haと聞いているが、そのくらいの広さですか？

（アフマッド）

はい。

（河村）

この家から、どれくらい離れたところに農地があるのですか？

（アフマッド）

大体4キロメートルちょっとでしょうか。うち、1キロメートルくらいは舗装された道路ですが、残りは側道で舗装もされていません。

（河村）

農地までは、どうやって通うのですか。

（アフマッド）

車などないので、歩いて通います。私の足ですと1時間くらいかかります。今の私の年齢ではとてもアブラヤシの世話はできませんので、実際には孫たちに

毎日アブラヤシの世話をしてもらっています。私も、体の許す範囲で農地にかよっていますが、最近はなかなか大変になりました。

(河村)

農地からは、いくらぐらいの収入があるのですか？

(アフマッド)

2 ha の農地から、月に2～3トンのアブラヤシの収穫があります。

1キログラムあたり400ルピアから600ルピアで買い取ってもらえますので、だいたい月150万ルピア程度の売上げがあるという感覚です。

しかし、そこから肥料代などを引いていくと、生活にはとても足りません。以前は、売上げの30%をローンとして返済することが強制されていたので、150万ルピアの売上げがあっても手元に残るのは105万ルピア程度でした。そこから肥料代を引くといくらも残りません。これでは到底暮らしてゆけないので、私の3人の子どもは臨時の運転手の仕事を入れて生活費を確保していました。

(河村)

ローンというのは、何ですか？

(アフマッド)

政府から移転の話を聞かされたときは、2 ha のアブラヤシが無償で提供されるということだったのです。

しかし、実際に移転してみると、アブラヤシ農園は有償譲渡であるとされ、売上げの30%を納めなくてはならないとされていたのです。この村から収穫されたアブラヤシの実は、PT ラマ社 (PT.Rama Jaya Pramukti 社) にしか販売してはいけないという契約になっていました。

(河村)

ちなみに、そういった内容を定めてある契約書のようなものはおもちですか？

(アフマッド)

いいえ。契約書のようなものはあるのかも知れませんが、役所を通しているので私たちの手元には残されていないのです。しかし、ローンの請求書であれば、見せてあげることができます。

(Umar B 氏に対する支払い請求書を見せてくれた。本書面に添付)

(河村)

ローンの返済がいつまで続くかも分からないのですか？

(アフマッド)

今年の3月で終わった人もいます。しかし、まだ30%のローンの請求を受けている人もいます。PT ラマ社の説明では、支払いに遅れが出た人はその分長く支払ってもらう必要があるとのことでした。

(河村)

インドネシアの NGO が、JBIC の依頼を受けて作成した報告書 (SAPS) によれば、ムアラマハットバル村はマヤンポンカイ村とともにアブラヤシ農園の経営を行い、ゴム農園で生計を立てている村よりも所得がかなり多いと書いてあります。マヤンポンカイ村の年収は2900万ルピアとも書いてありますが、ムアラマハットバル村の皆さんの年収もこのくらいあるのですか？

(アフマッド)

そんなことは絶対にありません。マヤンポンカイ村でもあり得ない話でしょう。先程述べたとおり、私の年間の売上げは2000万ルピア程度ですし、そこからローンと肥料代を引いてゆくと、生活するにも足りない程度の金額しか残りません。なにより、移住してから家族が増えています。移住に当たっては1家族あたり2haのアブラヤシ農地が支給されたのですが、先程も述べたとおり今では孫の世代が生活の中心になってきています。人数が増えたのに、土地は増えません。ですから、年がたつにつれて生活が苦しくなっていたのです。

(河村)

移転に当たっては、タナウライヤット (部族共有地) は支給されたのですか？

(アフマッド)

いいえ。だから、世代がしたになるにつれて経済的に困ってゆくケースが非常に多いのです。

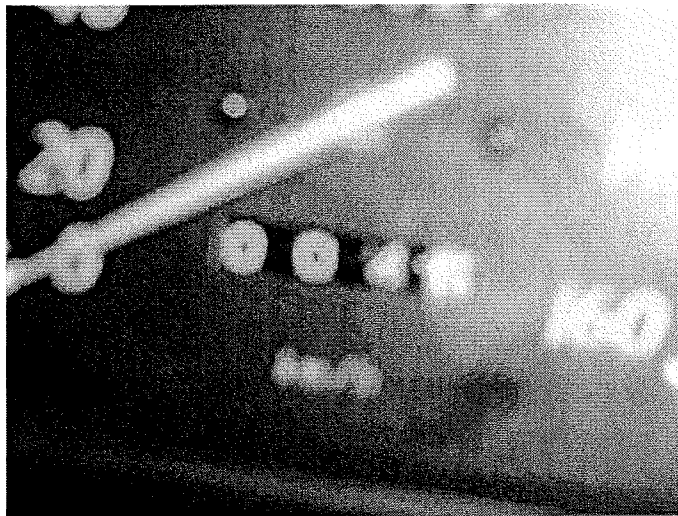
聞き取り報告書②

2004年6月25日午後2時30分ころから
アフマッド・ペーゲー氏の自宅からアフマッド・ペーゲー氏の所有するアブラ
ヤシ農地にかけて

アフマッド・ペーゲー氏及び2名の孫

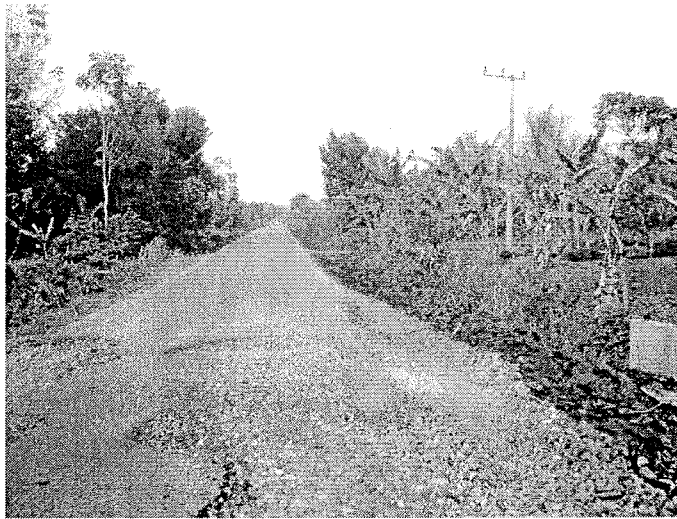
1 居宅から農園までの距離、仕事のために通う苦勞などについて

アフマッド・ペーゲー氏の自宅からアフマッド・ペーゲー氏の所有するアブラ
ヤシ農地までの道のりは、調査に使用した自動車の距離計により計測したと
ころ4キロメートルであった（写真1）



（写真1：4キロメートルを指す距離計）

アブラヤシ農地までの道は、途中まで舗装されていたものの、その舗装は崩
れかかっており、さらに、枝分かれした道はまったく舗装されておらず草木が
生い茂る状態であった（写真2・3）



(写真2 : アブラヤシ農地までの道)



(写真3 : アブラヤシ農地までの道)

(河村)

農園を世話に通っている時間帯は何時から何時までですか？

(アフマッドの孫)

朝8時から夕方の4時までです。

(河村)

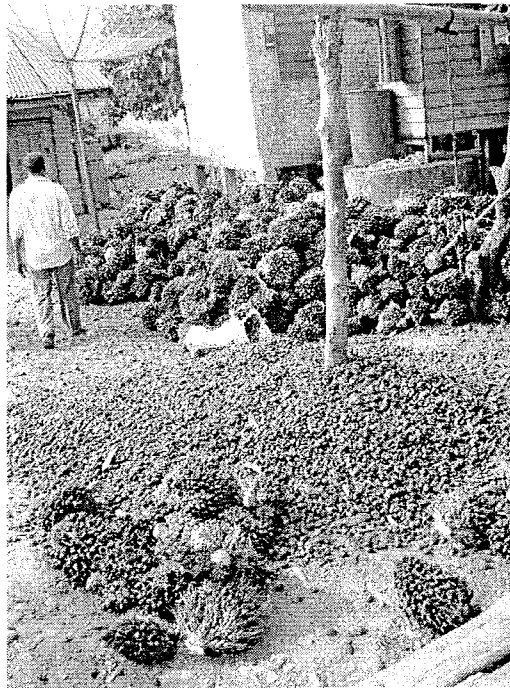
農地へは、手ぶらで通っているのですか？

(アフマッドの孫)

いいえ。下草を刈ったり、枝を落としたりする道具を持っています。重さはそれぞれ2キロくらいあります。また、収穫した実を集積場に運ぶために、ネ

コ車を押してゆきます。肥料を運ぶときはもっと荷物は重いのですが、最近はお金がなくて肥料が買えないときも多いです。

なお、アブラヤシの集積場を通過したので、その様子を写真4として添付する。



(写真4：アブラヤシ集積場の様子)

2 アブラヤシ農地の現状

アブラヤシ農地は、隣地との境界を標柱で区画し、目印となるヤシの木には明認方法が施されている（写真5・6）。

2ヘクタールの農地に、アブラヤシを10本（横）×25本（縦）植えて栽培するのが一般的な栽培方法である（写真7）。



(写真5：隣地との境界を示す標柱)



(写真6：ヤシの木に施された明認方法)



(写真7：アブラヤシ農地の様子)

(河村)

ヤシの木の栽培にあたって、必要な作業とは何ですか。

(アフマッドの孫)

生えてくる下草を刈り取らなくてはなりませんし、ヤシの木の枝の処理も必要です。また、アブラヤシの栽培にあたっては、必ず肥料をやらなくてはなりません。肥料を与えないと、実りが悪くなりますし、実の品質も落ちてしまいます。

(河村)

肥料は、どのくらい与えることが必要なのですか。

(アフマッドの孫)

おおよそですが、アブラヤシの木1本に対して半年間に3キロから5キロの肥料を施す必要があります。6種類ほどの肥料をミックスして与えるのですが、1ヶ月あたり50万ルピア程度の肥料代がかかります。しかし、このアブラヤシ農地のヤシについては、お金が足りませんので満足に肥料を施せていません。

(河村)

買い上げ価格は、市場価格と比べて低額なのですか。

(アフマッドの孫)

はい。例えば市場価格が1キロあたり600ルピアだったとき、買い上げ価格は1キロあたり500ルピアでした。

(河村)

それでは、一般市場で売りさばいた方が得ではないですか。

(アフマッドの孫)

そうかもしれませんが、ローンが残存している期間中は、買い上げを行っている企業以外に売った場合処罰される(罰金を払う)ことになっていたと聞かされています。ローンが終了したとしても、一般市場にどうやって売りさばいたらいいか分かりませんし、一般市場に売りさばいたことが判明した場合に、買い上げを行っている企業から残りのアブラヤシの買い上げを拒否されてしまいますので、恐くてできません。

(河村)

アブラヤシの実を収穫する周期はどのくらいですか。

(アフマッドの孫)

成長して収穫できる状態の木で年4回程度です。

(河村)

アブラヤシを売った代金から、肥料代やローンなどを引いて、手元に残るお金は月あたりいくらなのですか。

(アフマッドの孫)

月によっても違いますが、今年(2004年)5月は40万ルピアが手元に残りました。その前の月は70万ルピア程度が手元に残ったと思います。年間で1000万ルピアに届くことはありません。

(河村)

生活状態はいかがですか。

(アフマッドの孫)

毎日生活が大変です。働いても働いても生活は楽になりませんし、だからといって他の仕事をしてアブラヤシの木の世話を怠れば、実が実らず収入は激減してしまいます。毎日がとても苦しいです。

なお、アフマッドの農地に植えてあるアブラヤシの木は、肥料を十分に施せないために樹勢が悪く、葉も萎びたような状態であった。その様子を写真8として添付する。



(写真8：肥料不足のため葉が萎びてしまったアブラヤシ)

聞き取り調査報告書③

2004年6月26日午後6時ころから

アミル・ハシム (Amir Hoesen 原告番号 G4) 氏宅

聞き取り対象者：アミル・ハシム (Amir Hoesen 原告番号 G4) 氏、イマン・ナシル (Iman Nasir Dt. Cermin 原告番号 G45) 氏、マンスール (Mansur, B 原告番号 G868) 氏、アプリス (Apri 原告番号 G113) 氏

(河村)

村の経済的状況の変化について、指導的立場にあった皆様からお話を伺いたい。

(アミル・ハシム)

アミル・ハシムといます。移転直後から Datuk (宗教的指導者) の地位にいます。移転前後の村民たちの経済的状態を比較すると、移転後経済状態が悪化したことは間違いありません。

(河村)

移転前のことについて伺いますが、米は自分たちのところで収穫できていましたか。食料品などについて、お金を出して買うことはありましたか？

(アミル・ハシム)

以前の村では、基本的に食糧の問題は存在しませんでした。豊かな収穫のある村で、米などを含め、食料をお金を出して買うということはありませんでした。工業製品など、お金を出して買わなければならない品物については、果樹やゴムなどの換金作物を売って得たお金で十分に足りていました。

(河村)

以前の村の人口は何人くらいでしたか。

(アミル・ハシム)

約500世帯、3000人弱くらいだったと思います。

(河村)

移転の話は、誰から聞いたのですか。

(アミル・ハシム)

県知事もしくは副県知事から説明がありました。軍役所の公務員が「移転しなければならない」といっており、移転に反対することはできませんでした。

(河村)

移転に際して、アブラヤシ栽培を生計手段とすることとなった経緯について教えてください。

(アミル・ハシム)

収穫できる状態のアブラヤシが用意されているという話であったし、他の移転予定地の土地はやせているという噂もあり、アブラヤシ栽培の方が安定的に収入になると考えた。また、この村は他の移転地に比べると低地であり、地味が豊かで水も得やすいのではないかと考え、移転した。

(河村)

移転に際し、アブラヤシ農地はどのような状態で引き渡されるということだったのか。

(アミル・ハシム)

収穫できる状態のアブラヤシ農地が1世帯あたり2ヘクタール、無償で提供されるという説明を県知事（もしくは副県知事）から受けています。

(河村)

実際には、どうだったのですか。

(アミル・ハシム)

アブラヤシ農地の一部は、収穫が見込めるような状態ではありませんでした。それよりも、移転後3年間は、農地が企業の所有とされ、私たちに引き渡されませんでした。その後7年間は、アブラヤシの販売代金のうち30%が「ローン」と称して差し引かれて支給されました。政府の約束と全く違ったのです。

(河村)

移転後、皆さんの生活状態はどうになりましたか。

(アミル・ハシム) (イマン・ナシル)

1年間は生活補償が支給されましたが、1年後にはそれもなくなってしまったので、村人たちは出稼ぎに出て生活を支えました。

(河村)

出稼ぎとは、例えばどんな仕事なのですか。

(アミル・ハシム) (イマン・ナシル)

農園労働者とか、車の運転手、プカンバルでの土木作業員等です。

(河村)

例えば、農園労働者の出稼ぎをした場合、収入はどの程度だったのですか。

(アミル・ハシム) (イマン・ナシル)

1日2500ルピアでした。

(河村)

ちなみに、移転した住民の中で、アブラヤシの栽培経験がある人はどれくらいいたのですか。

(アミル・ハシム)

1名もいませんでした。

(河村)

約束と違うことについて政府などに抗議はしたのですか。

(アミル・ハシム)

していません。当時はスハルト政権で、政府に抗議するなどということはとても考えられない状況でした。

(河村)

移転後の生活状態について更に聞きますが、電気や水道といった基本設備は移転時に既に整っていたのですか。

(アミル・ハシム)

いいえ。電気については、移転の説明の際には準備されているということだったのが、移転してみたら電気はなく3年間ランプ生活を送った。3年後によく電気が引かれたが、無料との約束と違い有料だった。水については、政府が用意した井戸は全く機能しなかったの、自分たちでお金を出して井戸を掘らざるを得なかった。自分の家の井戸は掘るのに100万ルピアかかっている。

(河村・アプリス氏に)

あなたの収入は村の平均に近いと聞いているが、具体的にはどの程度の収支になっているのか教えて下さい。

(アプリス)

2ヘクタールの農地にアブラヤシの木は約250本です。1ヶ月の収穫量は、よいときで3トン程度、悪いと2トンを下回ります。買い取り価格は企業が決めてしまうのですが、現在は1キロあたり700ルピアと比較的高値で買い取ってもらっています。それでも、肥料代などを引くと、手元に残るのは1ヶ月100万ルピア程度です。

(河村)

養鶏場のプロジェクトがあったとも聞いているが。

(アミル・ハシム) (イマン・ナシル)

何らかの手違いでアブラヤシ農地を支給されなかった人たちが養鶏場やとうも

ろこし栽培を試みたこともあったが、いずれも失敗した。現在では、自家用に鶏を飼うことは別として、商業的な養鶏をしている人はいない。

(河村)

今の生活に不安はあるか

(アミル・ハシム) (イマン・ナシル)

もちろん。家族が増えるのに土地がない。アブラヤシ農園は2ヘクタールであり収入は増えない。だから生活状況が悪くなる。村全体で、移転時から既に400世帯から300世帯の増加があった。これでは経済状態が悪くなるばかりだ。

(河村)

移転前は、世帯数が増えたらどうしていたのですか。

(アミル・ハシム) (イマン・ナシル)

タナウライヤットを開墾しました。

(河村)

今回の移転にあたって、タナウライヤットが支給されるなど、タナウライヤット制度に考慮した措置がなされましたか。

(アミル・ハシム) (イマン・ナシル)

まったくありません。

(河村)

SAPS 報告書では、ムアラ・マハット・バル村について、豊かで、2900万RP/年の収入があると言っているが、本当ですか。

(一同)

そんなことはありません。私たちの生活の実態は今お話ししたとおりで大変苦しく、そのことを日本の裁判所にぜひ分かってもらいたいと思います。

DAFTAR PENDAPATAN PENJUALAN TBS
PETANI. KEL. TANI :
KUD MUARA MAHAT SEJAHTERA

KT :
Nama : Umar B
Blok/Kav : 113

I. PRODUKSI :
1. Berat Kotor = 3295 kg x Rp. 373 = Rp. 1229200
2. Berat Bersih = kg x Rp. = Rp.

II. POTONGAN :
1. Cicilan Kredit = Rp. 318600
2. Pupuk = Rp. 163513
3. R K O = Rp. 10416
Jumlah Potongan = Rp. 562609

Pendapatan Bersih = Rp. 666590

III. POTONGAN LAIN - LAIN :

1. Simpanan Wajib = Rp.
2. Waserda = Rp.
3. Angkong = Rp.
4. Saproton = Rp.
5. Bahan Bangunan = Rp.
6. Simpan - Pinjam = Rp.
7. Listrik = Rp.
8. = Rp.
9. O. pupuk = Rp. 5000
10. = Rp.
11. = Rp.
12. = Rp.

Jumlah Potongan Lain - lain = Rp. 5000

Pendapatan Bersih diterima = Rp. 660590

UPT III BANGKINANG X/G
PENGURUS KELOMPOK TANI

1350
647.090

Ketua Sekretaris Bendahara

DAFTAR PENDAPATAN PENJUALAN TBS
PETANI. KEL. TANI :
KUD MUARA MAHAT SEJAHTERA

KT :
Nama : Umar B
Blok/Kav :

I. PRODUKSI :
1. Berat Kotor = kg x Rp.
2. Berat Bersih = 1005 kg x Rp. 16985 = Rp. 848509

II. POTONGAN :
1. Cicilan Kredit = Rp. 16970910
2. Pupuk = Rp. 85000
3. R K O = Rp. 3884880
Jumlah Potongan = Rp. 294549195

Pendapatan Bersih = Rp. 553970195

III. POTONGAN LAIN - LAIN :

1. Simpanan Wajib = Rp. 2000
2. Waserda = Rp. 360700
3. Angkong = Rp.
4. Saproton = Rp. 143400
5. Bahan Bangunan = Rp.
6. Simpan - Pinjam = Rp.
7. Listrik = Rp. 10000
8. = Rp. 500
9. = Rp. 500
10. = Rp. 500
11. = Rp. 3400
12. = Rp. 500

Jumlah Potongan Lain - lain = Rp. 101250

Pendapatan Bersih diterima = Rp. 37700195

UPT III BANGKINANG X/G
PENGURUS KELOMPOK TANI

98

Ketua Sekretaris Bendahara

農業団体 農民 農作物直売収入一覧
豊かなムアラ・マハット村落協同組合

KT :

名前 : ウマール・B

ブロック/区画 : 1133

I. 生産

1、総重量 = 3.295 kg × Rp. 373 = Rp. 1,229,200
2、実重量 = kg × Rp. = Rp. _____

II. 切り捨て分

1、 分割払い = Rp. 318.680
2、 肥料 = Rp. 163.513
3、 RKO = Rp. 80,416
切り捨て合計 = Rp. 562.609
実収入 = Rp. 666.591

III. その他切り捨て分

1、 貯蓄義務 = Rp.
2、 雑貨屋 = Rp.
3、 リアカー = Rp.
4、 農業資材 = Rp.
5、 建設物資材 = Rp.
6、 共済 = Rp.
7、 電力 = Rp.
8、 肥料 = Rp. 5.000
9、 = Rp.
10、 = Rp.
11、 = Rp.
12、 = Rp. _____

その他切捨て合計 = Rp. 5.000

受ける実収入 = Rp. 660.590

電気、 13.500

バンキナン X/G プロジェクト実行ユニット III 647.090

農業団体役員

議長

事務局

会計

農業団体 農民 農作物直売収入一覧
豊かなムアラ・マハット村落協同組合

KT :

名前 : UMAR B

ブロック/区画 :

I. 生産

1、総重量 = kg×Rp. = Rp. _____
2、実重量 = 1805,94 kg×Rp. 469,85 = Rp. 848,520,9

II. 切り捨て分

1、 分割払い = Rp. 169.704,18
2、 肥料 = Rp. 85.000
3、 RKO = Rp. 38.848,80
切り捨て合計 = Rp. 294.549,95
実収入 = Rp. 553.970,95

III. その他切り捨て分

1、 貯蓄義務 = Rp. 2.000
2、 雑貨屋 = Rp. 360.700
3、 リアカー = Rp.
4、 農業資材 = Rp. 143.400
5、 建設物資材 = Rp.
6、 共済 = Rp.
7、 電力 = Rp. 10.000
8、 = Rp. 500
9、 = Rp. 500
10、 ロープ = Rp. 250
11、 = Rp. 3.400
12、 車代 = Rp. 500
その他切捨て合計 = Rp. 521.250
受ける実収入 = Rp. 327.209,95

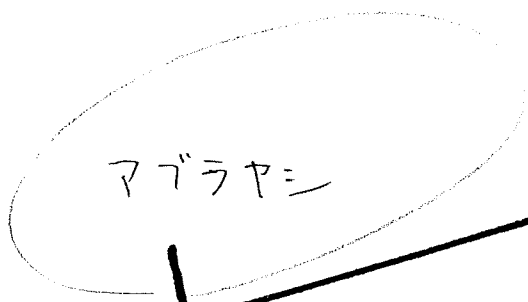
バンキナン X/G プロジェクト実行ユニット III

農業団体役員

議長

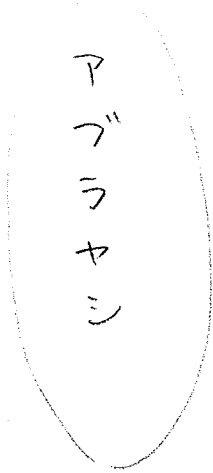
事務局

会計



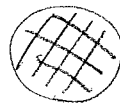
* アフマド家の
アブラヤシ農地

アブラヤシ



ア
ブ
ラ
ヤ
シ

政府の
建てたモスク



村役場



学校

住民が建て

たモスク



市場

アフマド氏
の孫宅

